

目 次

I 令和4年度事業概要編

概 要	1
沿 革	1
予 算 ・ 決 算	2
事 業 統 計	3
所 員 名 簿	3
環境科学研究センターの移転について	4
試 験 ・ 検 査 業 務	7
調 査 ・ 研 究 業 務	12
行 事 お よ び 見 学 の 報 告	25

II 調査・研究報告編

〔報文〕 指示薬法で得られた浴槽水等のpH測定結果に及ぼす水温誤差についての考察	27
--	----

大島 詔

大阪市の立入検査で計測される浴槽水のpHを指示薬法とガラス電極法で値を相互比較した。電極法に対する指示薬法の測定結果はおおむね良好であったが、酸性側への偏向が認められたので水温誤差について検討したところ、フェノールレッドにおいてのみ誤差の44%を説明することができた。

〔研究ノート〕 底質試料中の鉛・希土類元素の濃度と発生源の推定	33
---------------------------------	----

加田平賢史・他

本研究では、底質試料に逐次抽出法を適用し、人為汚染の影響について議論した。鉛は人為汚染が示唆されたが、希土類については自然由来であると考えられた。

〔研究ノート〕 大阪市内大気エアロゾルの粒径分布 ―最近の傾向について―	39
--------------------------------------	----

船坂 邦弘

大阪市内の大気エアロゾル及びその無機成分の粒径分布について最近の傾向を俯瞰した。2020年1月以降の船舶排ガス規制の強化やCOVID-19感染蔓延による産業活動の変化も相俟って濃度の減少が確認された成分もあった。

〔研究ノート〕 感染対策を目的としたデジタル技術によるエアロゾル拡散防止策の評価およびエアロゾルモニタリングの検討	43
---	----

中尾 賢志

安価なダストセンサとシングルボードコンピュータを用いたシステムを構築し、新型コロナウイルスを含むエアロゾルをダストに見立てて食事時の拡散防止策評価を行った結果、パーティションの設置及び発話時のマスク着用が効果的であった。また、家庭内でのエアロゾル発生は食事時の食卓が多く、トイレや寝室は少なかった。

他紙発表および学会発表要旨	47
---------------	----